

ラッパモクの分布に就いて

山田 幸 男

昨年東京都立大学の加崎英男助教授から同学学生園田幸郎君が相州葉山附近に於て採取した海藻の標本の同定を乞はれ同時に同君の作ったリストを見せて貰う事が出来た。然るにこのリストの内にはラッパモクの名が見えたので非常に面白いことと思ひ特に乞うてその液浸標本の送附をえた処間違なくラッパモク (*Turbinaria ornata* J. Ag.) であつた。同君の手記によると「これは8月20日に葉山公園の前の浜(大浜)に打ちあげられていたものです。フォルマリン漬けですがとつた時もほぼこんな状態で、死んではいない様でした。南西の風で波がある日でした。伊豆の方から流れてきたものか、葉山にあつたものか疑問です。それ以後一度も見ません」とある。抑々本種の産地として岡村先生の海藻誌にあげられているのを見るに台湾紅頭嶼、琉球、小笠原島、種子ケ島、土佐浦戸(安部)並に伊豆須崎(瀬川)が産地としてあげられている。

この内瀬川宗吉博士の採つたものも矢張り打揚げ品で、生えていたものではない。土佐浦戸(安部)とあるものは如何であろうかと手許にある先生の標本を見た処“*Turbinaria ornata* 土佐浦戸、阿部世意治氏送る”という1標本がありこれは勿論明に本種であるが長さ1cm余りに過ぎない fragment で基部もない。恐らく矢張り打あげられたものではないかと察せられる。

筆者は先年来瀬川博士と共に伊豆諸島特に八丈島の海藻の調査に従事しているが未だに此の種の実際に生えているのを見る機会がない。実際の標本が伊豆に打揚げられ今又葉山にも流れついているのがわかり、又土佐にも見出されているのを見ると、どこか此の辺に實際生育している処があるらしくも思われるので、何とかしてつきとめて見度いと思うのであるがどなたか此の件に関して御教示を受けられれば幸である。尚此処に掲げた図は此度園田君の葉山に採取した標本を写生したものである。



ラッパモク × 1

(北海道大学理学部植物学教室)